

## 2011年、春・・・

CMEO 事業部 田村一雄

3月28日、東京で桜の開花が発表された。去年より6日遅く平年並みの開花ということだ。今週中に9割方開花するという。花見は天気にもよるがこの土日が勝負か。でも僕が主に移動する範囲(板橋区～中野区)ではまだ桜の気配はない。

この50年近い人生の中で<sup>\*1</sup>20回以上はお花見をやったと思う。子供の頃はほろ酔いの父親と家族で<sup>\*2</sup>石神井川沿いを歩いただけというのもあった。学生時代は外堀で他の大学の連中と静いながら酒を飲んだ。結婚後子供が小さい頃はじいじ、ばあばも一緒に城北公園で。子供が小学生になると学童クラブのオヤジ、カアチャン達と光が丘公園で。光が丘公園では空手の仲間(子供含む)や、ここ数年は会社のメンバーと花見をやっている。

小規模もあれば大規模もあり、昼もあれば夜もある。桜が満開のときもあれば、「葉桜」もあった。雨天決行もあった。

学童クラブの花見は、それは派手なもので40～50人は集まるし、直径40cm×高さ50cmくらいの寸胴でとん汁をつくったり、BBQ用コンロなども用意する。昨年、ある焼とん屋さん主催の花見では、やはり延べ人数30人以上になりプロが焼とんを焼いてくれたり料理も豪勢なものであった。

会社のメンバーとの花見では、僕が酒・ドリンク類を用意し、つまみはなんでもよいからひとり一品持ってきてもらう。買ってきたものでも問題ないが、手作りものが歓迎だ。コンパニオンを呼ぶこともある。ここで言うコンパニオンとは、たんなる僕の行きつけの近所の飲み屋のおねいちゃんです。日本人とは限らない。いや、日本人でないケースが多い。まあ、それはいいとして・・・。

昨日、今日(3/29・30)と少し気温が上がり(最高気温15℃)少し暖かくなったが、寒さが続いていたせいか春を迎えたような気分になりにくい。そうした気分は気温のせいばかりではないようだ。花見開催にもなんか後ろめたい気持ちもある。この季節、東京でも夜桜見物はまだ寒い。カイロを持ってヒートテックを着込んでダウンなども必須だ。ましてや東北地方は。

1995年8月、僕らは東北自動車道をハイエースで北上していた。僕らとは、小松さん夫婦とその娘10歳、僕、僕の娘11歳、息子7歳の6人。学童クラブで知り合い15歳ほど年上の小松さんとは妙にウマが合った。僕には所謂「故郷」は無く、小松さんのお盆の帰郷に子供ともども便乗させてもらったのだ。

うちを朝4時くらいに出発した。小松さんと僕が交互に運転した。東北道に入ってしばらくは順調であったが、仙台を過ぎたあたりから渋滞が始まった。<sup>\*3</sup>3車線から2車線になったためだったと思われ。一関あたりで高速を降り、げいび渓谷に向かった。川下りしてみようということだったが、まだ朝7:00過ぎくらいでやっていなかった。今度は気仙沼に向かい、遊覧船に乗って<sup>\*4</sup>カモメにかっぱえびせんをあげたり、レストランで腹ごしらえをした。気仙沼からはほぼ三陸海

岸線沿いに北上する。言うまでもなく、三陸海岸はリアス式海岸なので海沿いを律儀にくねくね行くわけではない。そして釜石を過ぎて着いたのは大槌町という町だった。

小松さんの実家はおばあちゃん（小松さんのお母さん）とお兄さんの2人暮らし。このお兄さんは若い頃、東京でプロのアコーディオン奏者として新宿あたりの歌声喫茶！で鳴らしていたらしい。古いレコードもたくさん持っていた。新宿時代、<sup>※5</sup>あぶない人をたくさん知っているというのも自慢だ。そうした経験を活かして、スナックを営んでいる。スナックはリビング？のドアとつながっている。

モノクロのTVをみながら食事をごちそうになった。近所の漁師さんからもらってきたという新鮮なウニや当時まだ東京では（流通の問題で）見かけたことがなかったサンマの刺身などがならんだ。

食事が終わり子供たちも寝てしまったので、お兄さんがやっているスナックで飲み直すことになった。カラオケをやったりお兄さんのアコーディオン演奏を聴いたり、僕も少しはギターが弾けたので生歌を披露したりした。かなり遅い時間に若く綺麗なおねいちゃんがスナックに入ってきた。そのおねいちゃんと意気投合し、実は自分もスナックをやっているという店に連れていかれた。お盆なので店は休みなのだが、東京から来た僕のために開店してくれるという。僕はちょっとした下心もあって喜んでついていった。しかし、人生というものはいくら甘いものではないようで、地元の若いおにいちゃんが何人か入ってきた。こいつらは、ママ目当てでやってきたのに東京から変なのが来やがってという感じで歓迎ムードではなかった。それでも2時間くらいはいたか。ママに「明日も来てね」と言われ、お店を出るとすっかり朝。小松さんちに戻った。鍵は開けておいてくれた。子供たちは寝ていたが、小松さんファミリーは早朝からお墓参りに出かけた。僕も少し寝たあと小松さんらがお墓参りから帰ってきて、車で10分くらいの海水浴場に行って東北の太平洋の冷たい海を味わった。午後は車で1時間くらいかけて龍泉洞に行った。帰ってきてまた飲んだ。前日のハードな飲みに加え一日中遊んだので、その夜は早めに寝てしまい、ママのスナックに行けなかった。ママには挨拶もせずに次の日東京に帰った。

今回の地震・津波は大槌町をも襲った。新聞報道などによると町長ほか大勢が行方不明とのことだった。3月29日の毎日新聞朝刊によると、大槌町の死亡者数は519名、行方不明者数は1,019名、避難者数は5,777名という。行方不明者数から考えると死亡者数はまだ増えるだろう。昨日、カミサンより小松さんのお兄さんもお母さんも無事だったとの報告がなされた。カミサンが小松さんの奥さんと会って話を聞いたという。

お母さんは入院中だったので無事、お兄さんは津波に流されたが家の屋根につかまってしので助けられたという。小松さんは3月26日（土）にお兄さんを引き取るため岩手に向かったという。小松さんの実家から一番近くの海までは歩いてほんの2～3分だ。小さな漁港といった佇まいだ。よく助かったものだ。本当に無事でよかった。スナックのママはどうしただろう。年齢は僕とさほど変わらないはずだ。

小松さんは近所に住んでいるので会えないわけではないのだが、お互いの子供が大きくなり、接点も少なくなったので以前のようにお互いの家を行ったりきたりして飲むことは全く無くなってしまった。落ち着いたらこちらから声をかけてみよう。

このたびの震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。大変な思いをされた方が続いている方々、御見舞い申し上げます。また、普段の生活に一日も早く戻れるようお祈りいたします。

たまたまそれが私ではなかったが、私であってもおかしくなかったことを「偶有性」ということを最近知った。今回の悲劇は関東地方であってもおかしくないし、いずれ訪れるかもしれない。そうした観点から今回のこと、そして今後のことを考えてみたいと思っている。

- ※1 毎年花見をやってきたわけではないが、1シーズンに複数回やったりもしました。
- ※2 僕の実家近くの石神井川沿いの桜の木は洪水対策（護岸工事）のために、もう何年も前に全て切られてしまった。しかし、僕の知っている限りでは、氷川台や中板橋あたりの桜は見事です。
- ※3 間違っていたらすみません。なにしろ15～16年前のことなので。
- ※4 ご存知の方も多いと思うが、かっぱえびせんを投げるとカモメがダイレクトにキャッチしてくれる。これが子供には驚きであり楽しい。僕も楽しかったです。
- ※5 小松さんはパンチパーマで髭をはやして、具志堅用高の顔を彫りを深くしたようないい男です。このブラザーズは、あぶない人をどれだけ知っているかを競っているフシがありました。ちなみに、小松さんはボクシング、お兄さんは合気道の達人とのこと。

**執筆者略歴：田村一雄**

1989年、㈱矢野経済研究所入社。以来、化学・素材分野の調査研究に従事。現在はデバイスまで調査領域を広げCMEO事業部長としてエレクトロニクス分野の川上から川下領域を統括。知的クラスターへのコンサルティング実績を有する他、台北事務所所長、ソウル支社長を兼務。